

KSKP



とくていひえいりかつどうほうじん

特定非営利活動法人 リアライズ

リアルライフNEWS

vol.7

1984年8月20日第三種郵便承認
毎日発行

こんかい つうしん がつ おこな じんけん ほうこく
今回の通信は、9月に行った人権セミナーの報告や

おな がつ おこな とらい たいわん とくしゅう おく おも
同じく9月に行われましたTRY2009 in台湾の特集をお送りしたいと思います！

◆◆◆ リアライズからTRYに参加した川本氏、彼を待ち受けていたものとは？！ ◆◆◆

こんかい ぞうりょう ぜん おく
今回はさらに増量、全24ページでお送りします！



とらいたいちゅう
TRY 台中コースのメンバーたちと。

だい かい えぬびーおー ほうじん

じんけん

第1回NPO法人リアライズ人権セミナー

ち い き

じ ぶ ん

い

地域で自分らしく生きる!!

しょうがい

しょうがいしゃ

じりつせいかつ

～障害はどこにあるの？ 障害者の自立生活って？～

ねん がつ にち だい かい ほうじん じんけん おこな
2009年9月26日、第1回NPO法人リアライズ人権セミナーが行われました。

とうじつ めい かた らいじょう こうえん とし わら まじ かいじょう
当日は50名の方が来場されました。講演では、まじめに、時に笑いを交えながら会場の
みなさんと一緒に考える時間を持つことができました。

地域で自分らしく生きる!!

みついたかお
三井孝夫

ぜんはん ちい き じぶ ん い
前半は「地域で自分らしく生きる!!」をテーマにリ

アライズ代表 三井孝夫の講演が行われました。

ふだん わら わら こうえん こんかい
普段は「笑いあり笑いあり」の講演ですが、今回は

じもといずみおおつ はつ じんけん
地元泉大津での初の人権セミナーということもあ

り、泉大津がどのような現状にあるのかということ

を具体的な数字を交えながら地元地域への熱い思い

を語りました。

泉州地域の現状

おおさか なんぶ せんしゅうちいき おおさかし ほくせつちいき
大阪の南部、泉州地域は、大阪市や北摂地域と

比較すると、自立するための要素で難しい点が多い

ことを具体的な数値を交えながら説明しました。特

に日中活動の場が少なく、日中何もしていないと

いう障害者の数が多いこと、障害者の施設

にゅうしよしゃ わりあい たちいき くら おお じんけん
入所者の割合が他地域に比べて多いこと、24時間

かいじよしゃ つか じりつせいかつ しょうがい
介助者を使いながら自立生活をしている障害

とうじしゃ いずみおおつし じんこうやく にんちゅう
当事者が泉大津市の人口約78,000人中、リアライズ

スタッフの川本氏だけであることなどを上げて

いずみおおつ せんしゅうちいき じつじょう せつめい
泉大津と泉州地域の実情を説明しました。

泉州の障害者はおとなしい？～一般的な障害者観

せんしゅうちいき しょうがいしゃ じょうきょう ほか
なぜ泉州地域の障害者がおかれた状況は、他

ちい き くら おく いずみおおつ せんしゅうちいき
の地域に比べ遅れているのか？泉大津や泉州地域

では、まだまだ「障害者は入所施設や支援学校へ

行くもの」という考え方が根強く、学齢期の頃から

ちい き かくぜつ かんきょう せいかつ さいしゅうてき にゅうしよ
地域と隔離した環境で生活し、最終的には入所

施設に入所することが一般的になってしまってい

る。社会参加できないことで自信を奪われ声を上げ

ることを遠慮する、おとなしい障害者が多いこと

で、なかなか障害者を取り巻く環境が整備されず



みついたかお
三井孝夫

だいひょう しんたいしょうがい きゅう せんてんせいこつけいせいふぜんししょう
リアライズ代表 (身体障害1級 先天性骨形成不全症)

ほね お こつけいせいふぜんししょう びょうき げんざい ごうけい かい こっせつ かさ
骨の折れやすい骨形成不全症という病気で、現在までに合計200回くらいの骨折を重ね

くるま ちい き しょう ちゅうがっこう かよ ごうこう ふほんい いえ もより がっこう
る。車いすで地域の小・中学校に通い、高校も不本意ながらも家から最寄の学校に

にゅうがく こうこうにゅうがくじ なに がっこうわ せきん と ねんしよ か
入学。高校入学時には、何かあっても学校側に責任は問わないという念書を書かれ、

ふとう あつか いきど おほ ねんかん す ごう いずみおおつ
不当な扱いに憤りを覚えながらも3年間を過ごした。その頃に「泉大津をなんとかした

い!」という思いが芽生えた。その後大学で4年間を過ごささまざまな差別について考え

ひび そつぎょうご おおさかし内い じりつせいかつ しゅぎょう つ じもといずみおおつ じりつせいかつ
る日々。卒業後は大阪市内の自立生活センターで修行を積み、地元泉大津に自立生活セ

つく あつ おち むね さくねん た あ
ンターを作りたい!という熱い思いを胸に昨年リアライズを立ち上げる。

じょうきょう つづ
にこのような 状 況 が続いているのではないかと
はなし
話 しました。

わたし かんが しょうがい 私たちの考える障害とは・・・??

いっぱんてき しょうがい せいかつくんれん
一般的に、障害は生活訓練やリハビリによって
こくふく しょうがい せいかつ けんじょうしゃ
克服するものであり、それを行いつづけて、健全者に
ちか しょうがい
近づくことがよしとされてきました。「障害はあつ
てはならないもの。」という価値観が一般化されてお
り、当事者自身もその価値観を刷り込まれてしまつて
おひらき しょうがい けんじょうしゃ ちか せいかつ
おり、自分自身の生活や人生を健全者に近い生活
きのおう たいせつ
機能を手にいれることに拘ってしまい、人生の大切
な時間を過度なリハビリや手術の繰り返しなどに
よつて機能障害を軽減させることに使つてしまひ
がちです。

わたし かんが しょうがい しょうがいしゃじしん なか
私たちの考える障害とは、障害者自身の中
にあるのではなく、社会の側にあるものであつて、
その社会の中にある障害こそがあつてはならない
ものだと考えます。歩けようがある歩けまいが行きたい
ところに行ける社会、目が見えなくても情報が溢れる
社会など、どんな人にとつても生活に支障のない
社会をつくることこそ、障害をなくすことになるので
はないか。変わるべきは障害者本人ではなく、社会
そのものである。そして、障害者は自信と誇りを持
つて生きていけば良いと伝え、前半の公演を締めく
くりました。

かわもとまさかつ 川本将勝

しんたいしょうがい きゅう のうせい
リアライズスタッフ (身体障害1級 脳性まひ)

のうせい てあし きんちやう つよ みぎて ぶ あ はな
脳性まひにより手足に緊張が強いため、右手を振り上げながら話すのがトレードマーク。
おおさかし そだ しえんがっこう ちいき がっこう てんこう さまざま けいけん
大阪で生まれ育ち、支援学校から地域の学校へ転校するなど様々な経験をしてきました。

しゃかい か あつ きも か みついし た あ ととき いっしょ
「社会を変えたい!」という熱い気持ちを買われ、三井氏がリアライズ立ち上げの時に一緒に
いずみおおつ さまざま でんせつ も めし けんざい
泉大津へ。様々な伝説の持ち主で、そのやんちゃぶりはリアライズでも健在です!

いずみおおつ てんにゆう ととき はなし に ゆーず くわ けいさい
泉大津へ転入してきた時の話は、リアルライフNEWS Vol.2に詳しく掲載しています。

ホームページからもご覧いただけるのでぜひお読みください。

URL <http://www.cil-realize.com/>

ぼく せいかつ 僕はこんな生活してます!

かわもとまさかつ
川本将勝

こうはん こうえん かわもとまさかつ
後半の講演では、リアライズスタッフの川本将勝
が自身の生い立ちや泉大津市に引っ越してくるとき
にあった体験について語りました。
かいじやう き かわもとまさかつ いずみおおつ
会場に来ていた方にとって、泉大津市で24
じかんかいじよ つか ひとりぐ じりつせいかつ
時間介助を使いながら一人暮らしで自立生活する
しょうがいとうじしゃ はなし き きかい
障害当事者の話を聞く機会はほかにないので、み
なさん真剣な面持ちで聞いておられました。家探し
をしたときに、契約直前に入居拒否されたり、
いずみおおつ せんとう い にゆうとうきよひ
泉大津で銭湯に行ったときに入湯拒否にあったこ
となどの差別体験や、転入の時に泉大津市には
じゆうどほうもんかいご ちょうじかんりやう ひと まった
重度訪問介護を長時間利用している人が全
くいなかったため、市役所との交渉にも苦労した話
など語りました。

いずみおおつ かわもとし く じかん
泉大津市は、川本氏が来るまでは24時間ヘルパー
をつか せいかつ ひと
を使いながら生活をする人はいませんでした。それ
でも ぎやうせい ちいき ひとひと つた げんざい じりつ
でも行政や地域の人々に伝えることで現在の自立
せいかつ おく かいじやう
生活を送ることができています。会場のみなさんに
ちいき しょうがい
地域でサポートさえあれば、どんな障害があつても
ちいき せいかつ つよ つた
地域で生活できることを強く伝えました。

ぶん にしの ゆずる
文：西野 譲



質問コーナー



ふたり こうえん しつぎおとう じかん
二人の講演のあと、質疑応答の時間となりました。

かいじょう みな しつもん な
会場の皆さんからさまざまな質問が投げかけられました。

いえ さが にゅうきよきよひ せんとう にゅうとうきよひ しょうじき おも
Q. 家を探しているときに入居拒否されたり、銭湯で入湯拒否されたときは、正直どう思いましたか？

A. しょうじき むちゃくちゃ ほう た
正直、むちゃくちゃ腹が立ちました！

なんでですか～！

なんでやねん！という気持ちでした。(川本)



じゅうどほうもんかいご ちょうじかんかいじょ りょう い しきゅう きじゅん
Q. 重度訪問介護で長時間介助を利用していると言いましたが、その支給についてなにか基準はある
んですか？24時間介助を使っているというお話でしたが、たりないところはどのようにしているんですか？

A. しょうがいしゃじりつしえんほう なか めいかく きじゅん こっこほじょきじゅん じじつじょう
障害者自立支援法の中に明確な基準はないが、国庫補助基準というのがあり、これが事実上の
じょうげん じちやうそん たい くに ふたん じょうげん さだ こ
上限となっていてます。これは、市町村に対する国の負担の上限を定めたもので、これを超
えると市町村が全て負担しないといけないことになりますので、この基準を超える支給をしないところ
がほとんどです。じかんすう た ぶぶん せいかつほご なか たにんかいごりょう つか
時間数の足りない部分については、まず生活保護の中の他人介護料を使っています。しかしそれを足しても24時間には足りない
ので、足りない部分 ぶぶん じぎょうしょ からはボランティア派遣で
おぎな ほんらい じかん くに ほしょう かわもと みつ井
補っています。本来は24時間すべて国が保障するべきなんですけどね。(川本&三井)

しょうがいじゅよう かんが き けいどしょうがいしゃ
Q. 障害受容について考えを聞かせてください。(軽度障害者)

A. えーでいーえるじりつ けいどしょうがいしゃ しょうがいじゅよう むすか すこ で
A D L 自立している軽度障害者にとって障害受容はなかなか難しいことです。少しがんばれば出
きてしまうことが多いので、ついついがんばってやってしまう。できてしまうから、自分に障害はな
いと思ってしまうがちですが、しゃかい み しょうがいしゃ
社会から見ればおもいきり障害者です。なのに、がんばって障害が
ないようにふるま じぶん しょうがい み み ぶり しょうがいしゃ きやうつう
こうやって自分の障害を見て見ぬ振りをしている障害者に共通しているのが、
じぶん じぶん い おこな けんじやうしゃ かね じかん
自分のできることしかしてなくて、自分の行けるとこにしか行っていないこと。健全者はお金と時間
さえあればどんなとこにでも行けるけど、しょうがいしゃ いぜん ぼく しょうがい
障害者はそうはいかない。以前の僕もそうでしたが、障害
じゅよう じぶん わく ぬ た
受容しないといつまでも自分のできることの枠から抜け出せないんですよ。「できないことはや
らない」じゃなくて、しゃかいしげん かつよう こと
ヘルパーや社会資源を活用してどんどんいろんな事
をやってほしいですね。(三井)

Q. 私は今施設にいます。私もふつ々の友達がほしいです。

A. これは当事者の本当の声ですね。施設の中だけの友達ではなくて、地域とつながりたいという思い。市町村によって施設から出るためのガイドヘルパー制度等があるところもあります。施設の中でもあきらめないで「施設から出たい!」という思いを伝えてもらって、どんどん出てきてほしいし、僕たちも施設から出れるようなサポートができればと思っています。(三井)

Q. 泉大津市で入居拒否や入湯拒否などの差別を受けたという話でしたが、なぜそういった状況が起るのでしょうか?どうすればなくなるのでしょうか?

A. どこで暮らしていてもこういった差別は多少なりとも存在すると思います。それが泉大津には多い。それは、**地域に出歩く当事者がまだまだ少ないから**だと思います。だから、地域の人は障害者に出会うことが少ない。そこで急に障害者に出会うとびっくりするんだと思います。泉大津でも、障害者も同じ学校に通い当たり、前のように同じ地域で暮らしていれば自然となくなるんじゃないかなと思います。(川本)

Q. 三井さんにとってリハビリとはなんですか?

A. 僕にとってのリハビリは、ある程度期間を区切ってやるときはやっぱりいいと思うけれどその期間を超えて無理にやるものではないと思っています。自分がやめたいと思ったときにやめればいいし、まわりから無理強いされるものではないです。中途障害の方で、元の状態に戻すことに固執するあまりに自分自身に無理なりハビリを強いている方もおられたりします。その場合は、「**そんなにがんばらなくてもいいよ。**」と一言かけられるような関係があればいいなと思います。(三井)

Q. 特別支援教育の生徒が学力試験のとき、別室に連れて行かれたり、得点も全体の平均点に含まないというのを知り、なぜかと教員に質問したが明確は回答がなかった。

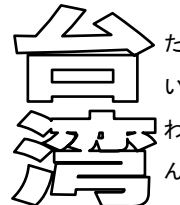
A. 大阪府は「教育日本一」を掲げているが、それに固執しすぎると、大阪府が今まで行ってきた、**「共に学び、共に生きる教育」の流れがつぶれてしまいます。**学力(点数)のほうにはばかり目が行ってしまい、一緒に学ぶことの大切さが蔑ろにされてしまい、昔の教育に逆戻りしてしまう可能性が高いように感じます。そこは僕たち当事者が**「それは違う!」**と声を上げていくことが重要だと思います。(三井)

あば ぼう しょう くん い 暴れん坊将kunが行く!! アジアTRY2009 in 台湾

こんかい ぼく がつ にち がつ にち かかん とらい たいわん さんか
今回僕は8月30日から9月12日の14日間『アジアTRY in台湾』に参加してきました!!

こんかい ほうこく とくしゅう おく
今回はその報告を特集なんと10ページでお送りします!

ぶん かわもとまさかつ
文：川本将勝



とらい TRYとは?

とらい もくてき じりつせいかつ かんが
TRYの目的は自立生活センターが考
え
る自立生活や鉄道のバリアフリーのことを
たいわん ひと つた
台湾の人たちに伝えていくことです。

がつ にち しゅっぱつちよくぜん かんさいくこう
8月30日 出発直前の関西空港にて

とらい みち TRYまでの道のり

にほん とらい はじ やくはんとしまえ
日本でもTRYが始まる約半年前から“アジア
とらい じっこういんかい せつりつ がいとう ほきん
TRY2009実行委員会”を設立し、街頭での募金
かつどう とらい さくせい はんばい
活動や「TRY-Tシャツ」を作成、販売すること
かいがい とうしきん あつ かつどう じゅんび
で海外への渡航資金を集めながら、活動の準備をし
てきました。



とらい たいわん わた かかんある つづ
TRYでは、台湾へ渡って10日間歩き続けると
いうことも大切ですが、とらい じゅんび
TRYをするための準備や
しきんあつ とらい ほきんかつどう おお
資金集め (TRY-Tシャツ、募金活動) などにも大
きな意味があります。ですが・・・もともと僕がTRY
いみ ぼく とらい
に参加したきっかけは、「川本・・・TRY行って来
さんか かわもと とらい い こ
い!」という三井代表の一声でした。しかし、僕の
みついだひょう ひとこえ ぼく
心の中は、「なんやろTRYって?」という状態だ
ころ なか とらい じょうたい
ったのです。

そんなこんなで西宮市にあるメインストリーム
にしのみやし
きょうかい うんえい さぎょうしょ おもむ
協会が運営するミラージュ作業所に赴くこと
に・・・そして気がつけば、TRY実行委員にな
き とらい じっこういん
っており、さらにTRYの先輩方に「代表選挙に出
とらい せんぱいがた だいひょうせんきょ で
てみる?」という言葉が掛けられ、「リアライズ当事者
ことば か とらじしゃ
スタッフとしてここはやらなあかんやろ!!」とヒー
りっこうほ なの あ
トアップして立候補の名乗りを上げてしまったので
ぼく とき とらい じたい よ りかい
す。でも、僕はその時、TRY自体を良く理解して
たいわん い ほんば ちゅうかりょうりた
おらず「台湾行ったら本場の中華料理食べれるし
おも あせ
♪」なんてことを思っていたのです・・・(汗)。で

も、そんな不埒な考えを持っていた僕が当選するわけもなく、人望が厚く TRY のことをよく考えている夢宙センターの内村さんが代表に選出されたのです。そんなこんなで僕の TRY が始まったのです。

そして準備の中で一番重要とも言える募金活動が始まりました。募金活動を始めた頃の僕は、募金活動の大切さをあまり分からないまま参加して

いました。募金活動は、毎週なんばや、梅田、京橋、西宮で街頭に立って、募金へのご協力や台湾の

現状を伝える為のものだったのですが、募金の大切さがわからなかった僕は伝えることが出来るはずもなく、大勢の前で訴える恥ずかしさもあって、

ただ呆然と立っていただけでした。そんな状況を見かねてか、前回の韓国 TRY の経験者から「そんなじゃあかんやろ!!」と喝をいれて頂き、「僕にと

って TRY ってなんなんやろう?」ということを考えてることになったのです。そんな悶悶とした思いを抱きつつ、TRY の募金活動は続きました。

そんな中、泉大津で募金活動を行ったときのこと

でした。長年貯めたであ

ろう 1 円玉が入った

ペットボトル

を何本も重いのに持

って来てくれたおば

ちゃんがいたのです!

あまりの出来ごとに少

しビックリしたと同時に、

泉大津で募金活動

行って良かった!と思えた瞬間でもありました。

また、リアライズのスタッフやヘルパー、リアライズに来てくれる佐々木くんや岡田くんなどが一緒に募



佐々木くん

1円玉のペットボトル



金活動に参加してくれたことにより、同じ志を持った仲間が必要だということを再認識することが

できたし、TRY 実行委員以外の多くの仲間や協力してくれる人がいるから TRY というイベン

トを開催することができるんだということに気付きました。僕はこの準備期間から参加できて本当に

良かったと思います。

募金活動も終わりに近づいた頃には、他の実行委員と同じように大声で皆に賛同や協力を訴

えることが出来るようになっていました。そして、僕が台湾に行って何が出来るのかを考えられるようにな

っていきました。僕がバリアフルな泉大津で、仲間と共に自立生活してること、台湾で伝えた

い!そして、**仲間がいればどんな社会でも変えていけるねん!**って伝えた

いねん!! ほんで、僕も荒波に揉まれて、男前★になってきたるねん!! てな決意を胸に

飛び立ったのです。

しゅっぱつとうじつ
そして、出発当日!

海外渡航が初めてだったこともあり、僕はいつになく緊張し、吐き気をもよoshしました。リアライズ

スタッフ曰く「捨てられた子犬のような目えしてるで・・・」とのことでした(笑)



今回の泉州地域に住んでいる TRY メンバーに
 は僕以外にも、自立生活センター・ナビで当事者ス
 タッフとして働いている足立 誠さんと泉大津市に
 住んでいて、よくリアライズに遊びに来てくれている
 岡田憲幸さんのお二人もいました。空港に集まった
 リアライズや、他の自立生活センターのみんなに
 見送られ、総勢36人(内当事者14人)で台湾へ向か
 ったのです。飛行機に約3時間乗り、台湾桃園国際
 空港に着きました。到着した僕はまず、極度の
 緊張を落ち着けるため、とりあえず一服しようとし
 ました**が！しかし**、台湾では空港はおろか、
 公共施設や飲食店などは基本的にはすべて禁煙
 だったのです！！そうすると更に吸いたくなるもん
 で・・・僕は敷地外に出て煙草を吸うはめになったの
 です・・・(泣)

その後、空港をあとにし、台北市内にある小学校
 へ向かい、その日は皆で、小学校の体育館で寝ま
 した。僕はエアベットを持参していたので快適に眠
 ることができましたが、ベッドは足踏みで膨らますタ
 イプだったので、膨らますのに15分もかかり、次の日
 以降は疲れ果てた皆に頼むことが申し訳なく・・・
 エアベットはただのお荷物と化したのでした・・・

今回の TRY では7グループに分かれ、4つのグル

ープが各国(日本、モンゴル、カンボジア、タイ、台湾、
 韓国)のメンバーと交流を深めながら自分たちで
 10日間のスケジュールを決め、台北市に向かう
 「交流コース」、3つのグループが台湾の障害者
 関係の施設や市役所などにいき、TRYの趣旨や
 自立生活の大切さなどを訴えながら台北市に向か
 う「セミナーコース」に分かれ、それぞれ台湾の各都
 市から台北市を目指して歩きました。

僕が参加していたコースは台中市から台北市に向
 かうセミナーコースで、主に台中にある障害者
 関係の施設や台中市役所などを中心に回るコー
 スでした。

のじゅく おも 野宿ばかりと思いきや?!

TRY 中、基本的には野宿だと聞いていましたが、
 僕が参加したコースはセミナーコースだったため、実
 際に野宿をしたのは TRY 1日目だけでした。

1日目は台北市内の公園で開会式を終え、公園
 から台北駅まで30分ほどデモ行進をし、電車で
 台中市まで3時間ほど移動しました。後からメンバ
 ーから聞いた話によると、乗車拒否があったそう
 です。その日は、公園で泊まる予定でした。

しかし! 公園の管理者が現れ、強く拒絶さ
 れてしまいました。しかたなく他の寝床を探すこと
 になりました。今回僕は電動車いすに乗って参加
 した為、バッテリーを充電する必要がありました。
 その為コンセントの差し込み口があるところで野宿
 できるところを探しました。しかし、そんな都合の良
 いところはなかなかありませんでしたが、なんとか1
 ケ所見つけることが出来ました。そこは**総合病院**
の救急搬送口! 搬送口なら屋根もついでる
 しやっと寝れる・・・と思い、病院の許可をとって

じゅうでん 充電をしました。そして、やっと やす よこ 休めると横なつ
 とたん すわ い よこ た途端、「座るのは良いが、横になつてもらうと くる
 の じゆくきよぜつ とまたもや野宿 拒絶！それでもねば つよ こうしょう
 していると、なんと警察！！が来たではありません
 つかうほう んか！？どうやら病院関係者が通報したようです！
 ぼく よこ 僕は横になったまま、台湾語で言われた為、言葉が
 い わ 分からず「なんて言ってるん！？」とわけがわからな
 ぼく ず じょう こうしょう おこな けっか いまま、僕の頭上で交渉が行われた結果、
 でんどうくるま じゅうでん けいさつしょ ぼく 電動車いすの充電は警察署でさせてもらい、僕
 とうしょのじゆく たちは当初野宿をするつもりだった公園の道路を
 はさむ 挟んだ向かいの歩道で寝ることに…。

のこ にちかん こうみんかん しせつ いん 残りの9日間は公民館やリハビリ施設、病院、キ
 きょう きょうかいとう と きほんてき ねぶくろ りスト教の教会等に泊まり、基本的には寝袋で寝
 とく いんしょう のこ しゆくはくばしょ ました。特に印象に残っている宿泊場所は **お寺**
 にほん 日本のお寺とは違い、台湾でお寺という
 みつぼし **三ツ星ホテル**のような建物で、お寺の外観や



しんしつ め 寝室を目にしたときには、あれ？？僕 TRY に来た
 ぼくとらい き んじゃなかったけ？？と啞然とし、 **TRY** は
 の じゆく **野宿！！**というイメージが崩れた為、腹がたつ
 ぼく ひ つか ゆか ね てきた僕は、その日、ベッドを使わず床で寝たので
 いまおも すこ たいわん じぜん した。でも今思えば、もう少し台湾メンバーと事前
 とらい しゆし もく にコミュニケーションをとって、TRYの趣旨や目
 てき きょうゆう おも 的を共有しておくべきだったと思います。

たいわん しょく じじょう 台湾の食☆事情

はなし か ぼく とうしょとらい い さて！！話は変わりますが、僕が当初 TRY に行
 おも もくてき ちゅうかりょうり きたい！！と思った目的である中華料理ですが、
 はっかく こうそう はい そこには八角という香草が入っており、ありとあら
 もの ゆる物に…。

はっかく はっかく はっかく はっかく 八角、八角、八角、八角、八角！？

はっかく はっかく はっかく にお か きぶん わる 八角づくしで、八角の臭いを嗅ぐだけで気分が悪く
 はっかく もうこう つか なったのでした…。そんな、八角の猛攻に疲れ
 ぼく べんとう たの や さ 秋 た僕がたまたま弁当を頼もうとしたときに、焼き秋
 ん まべんとう ぼく まよ さ 刀魚弁当があるではありませんか！！僕は迷わず秋
 ん まべんとう と が、しかし！ 秋刀 刀魚弁当に飛びつきました！
 ま ひとくちた しゆんかん ないぞう なま き 魚を一口食べた瞬間、わた(内臓)が生なことに気
 づ 付いたのです！僕は **NO! NO!** と必死に
 うった 訴えましたが、その時に食事介助をしてしてくれてい
 たいわん じょしだいせい まった つた たのはピンちゃん(台湾の女子大生)で、全く伝わ
 ぼろた つづ はめ なみだ らず、1/3程食べさせられ続ける羽目に…。(涙)
 さいしゅうてき 最終的には「**オールドフィッシ**
 ふる さかな い **ユ！！**(古い魚)」と言って、やっと生焼秋刀
 ま かいぼう 魚から解放されたのでした…。

ぼく ほんばちゅうかりょうり ゆめ はっかく というわけで、僕の本場中華料理の夢は八角の
 にお き さ 臭いととも消え去ったのでした。

なん やくしょ こうしょう さんか 何と!!役所との交渉に参加しました!!

はなし もど たいちゅう いちばん さて、話は戻り、台中コースでの一番のイベン
 たいちゅうしやくしょ ぎょうせいこうしょう トは、台中市役所との行政交渉でした。
 ふんいき こうしょう おこな おも どのような雰囲気での交渉が行われるのかと思
 しやくしょがわ かんが こうしょう いましたが、市役所側が考えていたのは、交渉と
 こうりゅうかいてき しゆつせきしゃ い 言うよりは交流会的なものでした。出席者は
 とらい たいちゅう やくしょがわ ふくしちやう ふくしけい TRY 台中グループで役所側は副市長と福祉系
 たんとうしゃ めい どぼくかんけいしゃ たんとうしゃ めい の担当者1名・土木関係者の担当者1名です。ま
 たいちゅう さんかしゃ かっくく つうやく つ た、台中グループの参加者は各国ごとに通訳が付

きました。



台中市役所の前で



まず副市長から挨拶と台中市の説明を受けました。その中で台中市が1番大事にしている事は、「愛のある町」だそうです。台中グループ代表の台中市の脊髄損傷者連絡会の代表をされている「リーサーさん」がTRYの目的などを説明し、軽く介助派遣制度の話をしました。その後、今回参加している国の中で1番自立生活運動が盛んである日本人のメンバーが中心となり介助派遣制度の必要性を訴えました。しかし、台中市側はまず、軽度な障害者が町に出られるようにするために道路などのバリアフリー化を優先するとの回答でした。それに対し、台中グループ、特に日本人メンバーは重度な障害者はどうやって生活していったらいいのかという風に聞き返しました。その上で人工呼吸器が必要な当事者である大城さんが

日本でどう生活しているのかという事を話し、介助派遣制度の必要性をもう一度訴えました。しかし、最終的には平行線のまま交渉の時間オーバーという理由で半強制的に終了させられてしまいました。

僕がこの交渉で感じたことは、本来、僕たち日本人メンバーは台湾の自立生活運動をサポートする目的で参加していたはずでしたが、結果的に日本人メンバー主体になってしまい、今思えば少し熱くなりすぎた…と思います。

その他のイベントは、身体障害者の人達が通っているリハビリテーション施設や総合病院などで見学や交流会を行いました。リハビリテーション施設で実際リハビリを見学しているとリハビリ漬けだった昔の自分とかぶり、なんとも言えない辛い気持ちになりました。またリハビリ施設職員や病院の看護師の話をしていると、健全者に近づくことが良いことだと言う考え方が日本以上に根強くあることを実感しました。



リハビリ施設の様子

...

とらい ぜんたい つう TRY イベント全体を通じて

今回アジア TRY に参加して思ったことは、海外の人とのコミュニケーションをとることの難しさを痛感しました。僕が参加していた台中コースに参加していた他の国のメンバーは、タイのタムさん、モンゴルのバイアールさん（共に日本で自立生活運動を一年間勉強した経験あり）以外は、日本語は通じず、基本的に英語でコミュニケーションをとっており、全く英語の勉強をしていなかった僕はすごく困りました。TRY 期間中の食事介助や電動車いすの操作のサポートは基本的に台湾から参加していた大学生メンバーにやってもらっていたので、片言の英語でコミュニケーションをとっていました。ちなみに台湾の大学生メンバーは全員女性で僕のタイプ☆の人もいたので、よりコミュニケーションをとる上での励みになりました。（笑）



この10日の間、台中コースのメンバー全員で数回のミーティングを行いました。そのときにもやはり言語の壁があり、なかなかスケジュールの共有や意見の共有をすることが難しかったのですが、タムさんのおかげで最低限の情報を共有することができました。タムさんはタイの自立生活運動のリーダー的存在で日本語以外にも英語やカンボジ

ア語なども話すことができるため台中コースの通訳的存在になってくれていました。しかし、いつもタムさんに頼るわけにもいかず、他のメンバーに教えてもらいながら、なんとか日常生活で話す程度の簡単なコミュニケーションはとれていたと思いますが、僕が日本でどのように生活しているのか、どんなところで活動をしているのかなどを特に台湾の障害当事者のメンバーや学生メンバーに上手く伝えることが出来ず、僕自身すごく悔しく自信をなくしてしまいました。そのことは、TRY 期間中はもちろん日本に帰ってきてからも悩み続けていましたが、最近ではコミュニケーションの壁が原因ではなく、自分の未熟さが原因だと思い、今は自分に出ることを一つ一つ積み上げていき、その経験を基に少しずつ成長していけたら良いなあとと思う今日この頃です。

もし次回、また台湾でアジア TRY をするのであれば、今回よりも自立生活を伝えられる自分になりたいと思います。だから、次回のアジア TRY も機会があれば参加しようと思います。

最後にこのアジア TRY in台湾の準備から協力してくれた皆さん、そして募金をしてくれた皆さん本当にありがとうございました。



おかちゃん感想!!

かんそう

～TRYから無事帰ってきて～

ぶん おかだ のりゆき
文： 岡田 憲幸



こんにちは！日ごろからリアライズにお世話になっている泉大津在住の岡田憲幸です。今回は本当にひよんなきっかけから（参加が決まったのはなんと7月末のことです！）、この”ASIA TRY 2009 in 台湾”に参加させていただくことになったのですが、初海外・初TRY！生まれてこのかた20数年間ずっと親元で暮らし続けている僕にとって、親元を離れて仲間たち過ごす海外での14日間は、本当に刺激とおどろきと発見に満ちたものでした。

発見できたことは多くあるのですが、まず一番大きかったのは「自分の生活をひとつひとつ毎日自分で決める」ことの大切さです。親元で暮らしているとき、黙っていても親が食事を用意してくれたり、家事や支度を手伝ってくれることも少なくありませんが、TRYでは、食べるものも泊まる所も決まっていない中で、その日その日の状況に応じて、たとえば「今日は洗濯をしようか？もしするとしたら、どうやって乾かそうか？」というように、日々入念に段取りをしていかなければいけません。また普段、自宅の慣れた環境の中では自力でできていることでも、環境や状況が変わるために、ヘルパーさんに手伝わってもらわないといけないこと(ex. 机がない場所での食事、立ったままでの更衣..etc)もたくさんでてきました。

でも、そんな「特別な状況だからこそ気づくことができた部分も多く、今回は本当に朝起きてから夜寝るまで、トイレからシャワーまで、一日同じチームの沖縄の健全常スタッフさんにお世話になったりもしたわけですが（彼はもはや僕のすべてを知っている(?)かもしれませんが)、そういう風に10日あまりヘルパーさんの力を借りながら過ごした中で、時間の効率や労力のことも考えると「やっぱり自分の生活の中にも、もしかしたらヘルパーさんがいてもいいかもなあ・・」と、わずかながら実感することができました。これは大きな発見だと思いません。僕はあの14日間、ヘルパーさんの力も借りながら、どうにか毎日無事食事をし、着替えをし、トイレに行き、眠ることができたことをとても誇りに思います。

そしてもう一つ、14日間の生活の中で印象が深かったのは、何と言ってもチームの仲間たちとの交流です。僕のチームは日本人・台湾人のほかに、タイ人・モンゴル人の人たちと一緒に、大学で外国語を専門に勉強した僕は、チーム内で少しばかり通訳的なことを任されたりもしたのですが、僕としてもいろんな国の人の英語や、標準の中国語とは少し違う台湾語にややとまどったりと、正式な



られる14日間でした。また、表面の言葉以上に、多国籍のいろいろな人が集まる中での思いや方向性の違いといった

たことの難しさも思い知らされました。たとえば、ミーティングや翌日の予定の話し合いの時などに、本当は大事なことを言ってくれているだろう時でも、時々何を言っているかが分からない時があったり

(しかも僕の場合、なまじ”分かるはず”というよう
な空気がすでにでき上がっていた感じ(?)だったの
で、何ともいえないプレッシャーなども少しありまし
たが(笑)、また内容自体はちゃんと行き渡っても、
意見が分かれるために
次の計画が決まらない
という、さらに難しい
問題にぶつかることも
ありました。



りょうへんせいくるま れっしや
4両編成車いす列車!

それでも、困難が大きいほど何とか切り抜けた後
の喜びは大きいもので、そんな波瀾万丈のTRYを
最終的に10日間歩ききった後には、いろいろな
ことを思い出して独特の喜びがこみあげてきまし
た。言葉のことにしても、まず僕としては、そんな感
じで不十分ながらも、自己紹介やミーティングの
たびに、晩ご飯そっちのけで部屋中をかけ回ってお話
のお手伝いをしたり、現地の人とも、わずかながら生
台湾語のリアルなやりとりを交しつつチームを支え
たりすることができ、ささやかな「縁の下の力持ち」
になることができて、自分のしてきたことが実際に目
の前の人の役に立っている、という実感をかみしめ
られたのが嬉しかったし、そしてそれと同じくらいに、
時間が経つにつれチーム内での結束も高まり、言葉
が違っても筆談や知っている言葉を駆使したりして、
積極的にコミュニケーションをしていこうという
雰囲気が出てきたことが印象的だったのです。

それにしても、“寝食を共にする”というのは本当
に不思議なもので、日々を重ねていくうちにみんなが
まるで家族のように思えてきて、一緒にいるのが当
たり前というような独特の空気が生まれてきました。
最終的に最後の9日目のミーティングでは、ひとり
ひとりがそれまでの日々を思い出しながら、これまで
のことやメンバーのことについてそれぞれの思いを

熱く語りだすと、今までにないしみりとした空気が
が流れました(僕も思わず、全く予想外の展開な
がら目頭が少し熱くなりました)。そんな中で
最終日にしてもらった、ゴール地点の台北駅での
車イスでの胴上げは僕にとっては忘れられない思
い出です(僕も他の人を見て、「上げてもらいたいな」
とかるく思いながらも「重いだろう」とあきらめつつ
あったのですが(笑)、メンバーの人が申し出てく
れました!)

…まあ、ここで書かせていただいたことはほんの一
握りにすぎず、その他にもたとえば、車イスに空気を
入れようとしたら逆に抜け始めて焦ったり、本場の
足つぼマッサージが予想以上に痛くて戸惑ったり
(笑)と、エピソードは本当に無限大にあったわけ
ですが、そのどれもが良い刺激であり、良い意味での
カルチャー・ショックといえると思います。

僕は今、この心身ともにチャレンジ的な(?) 1
4日間の生活を経験して、「こんな過酷な生活が乗
り切れたんだから、知りつくした地元や自宅での生活
はもしかしたらもっと楽なんじゃないか」と、本当に
早合点ながらも自立生活へのかすかな自信を芽生え
させつつあり、それを自分の中での大きな進歩と感
じています。この企画への飛び入り参加を認めてくだ
さった実行委員会の皆さんや、14日間支えてくだ
さった皆さんには感謝をしたいと思います。これか
ら、夜の屋台がにぎやかで小籠包がおいしかった
台湾の日々を心の片隅におきつつ(笑)、自立生活
を目指してがんばりたいと思います。



TRY2009 in 台湾

台中コース緊急企画 足立くん誕生パーティー!!

9月6日は、貝塚に住む泉州人、足立誠くんの誕生日。そう、彼はトライの真っ最中に誕生日を迎えようとしていたのです。それを知っていたリアライズの川本くんは、ある計画を思いつきました。その計画は、足立くん知らないところで、川本くんさえも知らないところで、進行していたのであります。文：西野譲

その計画は、密かに始まった!!

9月5日、その日は、台北市を目指す7つのコースのうち、リアライズの川本くんと自立生活センターナビの足立くんのいる台中コースと、台中市の隣、嘉義市から台北市を目指す岡田くんのいる嘉義コースの2コースが合流した。お互いのコースのこれまでの報告会が行われた後、台中コースと嘉義コースとはまた別々の道に別れて進もうとしていた。報告会の後、川本くんは岡田くんを探した。川本くんは岡田くんが中国語を話せることを知っていたのだ。岡田くんに足立くんの誕生日会計画について台中コースのメンバーに足立くんにわからないように伝えた。そして、ここから川本くんさえ知らないところで計画が進んでいくのであった・・・

足立誠プロフィール

大阪府南部、リアライズのある泉大津市よりもさらに南にある貝塚市在住の生まれも育ちもバリバリの泉州人で、脳性まひの障害当事者。岡田くんの友達で縁あってリアライズとつながりました。現在は大阪市内にある自立生活センターナビのスタッフとして活躍中。



台中コースのメンバーはその日の宿泊場所に向かった。その日は台中市にある知的障害者の養護学校に泊ることになった。到着は午後10時を過ぎていた。もう遅い時間だが、その日以降の予定が全く立っていなかった。それを決めるためのミーティングをしないといけない。

夕食を済ませ、みんなでミーティングをすることになった。各自部屋に荷物を置き、ミーティングのため地下の大部屋に移動した。その時に、足立くんだけが先に。そこには台中コースのサブリーダー、リーさんしかまだ来ていなかった。もちろんそれは意図的なものであった。この間にみんな必死に準備を進めていた！

ぼちぼちみんなが揃い始め、全員が揃ってミーティング開始できる状態になったのは11時50分ごろだった。足立くんは、今後の日程について真剣な顔で考えを巡らしていた。しかし、みんなは計画に気づかれないように必死に笑いを悟られないように準備を進めていた。しかし、そんなみんなに戦慄が走る！足立くんが、

後ろのホワイトボードに目がいきそうになったのだ！そこには足立くんの誕生日を祝う言葉の数々が！まずい！それに気づいた自立生活センターぱあとなあくろいしの黒石さんがすかさず飛びだし、ホワイトボードを見せないように必死にかつ自然な感じで死守！黒石さんのフィンセーブでなんとか足立くんに気づかれずにすんだ。

そして、ついに9月6日を迎えた！

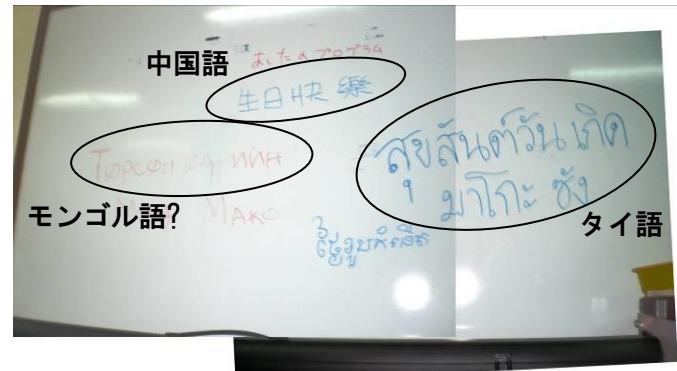
時計がちょうど12時を指した。「さあ、ミーティング始めようか！」その言葉と同時にパッと電気が消えた！

「ハッピーバースデートゥーユー♪ ハッピーバースデートゥーユー♪」

流れるみんなの歌声の中、ローソクの火がともったケーキが登場！！

「僕はもうその時感動で泣きそうでした。」(足立)

足立くんの後ろには、ホワイトボードにいろんな国の言葉で誕生日おめでとうの言葉がならんでいた。



感動の足立くんに、さらに！

「誕生日プレゼントあるよ！目をつむって！」

言われたとおりに目をつむった足立くん、

「ケーキが飛んでくるのか?! いや、さては川本さんになんかされるのでは?!」(足立 心の声)

そんな覚悟をする足立くんに・・・



そのあと、もう一回目をつぶってと言われ、今度はお約束のケーキが顔に飛んできました。ちゃんちゃん。



足立&川本の後日談

場所：リアライズ事務所

足立：ほんまにびっくりしました。ローソクを吹き消した時に、感動で泣きそうでした。

川本：みんなめっちゃ笑いこらえてたから、見つかれへんかビクビクやったわ。

足立：ほんとに全然わからなかったです。ほんまにびっくりしました。

川本：いやー、あの時はみんなすごい団結力やったわ。

足立：ほんとにうれしかったです、ありがとうございました！

フィールドワークニュース

こんにちは！フィールドワーク担当の山本啓司(ヒロシ)です！さて、今回のニュースレターでは、「桃山学院大学・和泉中央駅周辺の店舗バリアフリーチェックの巻」と「阪神巨人観戦！in甲子園の巻」の様子をお伝えしたいと思います。秋になり、涼なってきましたが、真夏の熱い企画を伝えていきたいと思います！！

～フィールドワーク参加者の紹介～

名前: 大山 壘

桃山学院大学社会学部社会福祉学科1年生

障害名: 筋ジストロフィー

趣味: 野球観戦(根っからのジャイアンツファン!!)

最近、サークルで飲み会や遊びに行くことが多くなり、キャンパ

スライフを満喫しているようです☆うらやましいかぎりです(笑)



このバリアフリーチェック企画が誕生するまで…

もともとフィールドワークの企画の中でバリアフリーチェックをしようと考えていたのですが、フィールドワーク初担当ということもあり、どのタイミングですればいいのか迷ってしまっていました。「次のフィールドワークはバリアフリーチェックがいいんかなあ、他の企画でもおもしろいかなあ??」といったような妄想が膨らむばかりで、悶々と悩む日々でした(笑)

他のスタッフから、「ヒロシ1人で考えるんじゃなくて、大山君の意見も聞いてみればいいんじゃないか?」と言われ、「そっか!」なんでそんな事にも気づかなかったんだろうと、少し反省。。すぐに大山君に電話をかけ、「次のフィールド



ワークでなにかしたい企画ある??」と尋ねると、大山君から「桃山学院大学周辺や、和泉中央駅周辺の店舗のバリアフリーチェックをしたいですね。そしてそれを調べた後、バリアフリーマップを作ったりできたらいいですね!」という返答が。。すぐに答えは見つかりました。大山君がバリアフリーチェックをしたいと思いついたのも理由があったそうです。大山君が高校生だった時、文化祭の打ち上げで焼肉店に行ったが、その店の入

り口には段差や階段があり、車いすでは、入店することができなかったという苦い思い出があったようです。大学では、サークルの飲み会や、休み時間に近くのカラオケ屋に行くのはよくあるそうです。そんな思いを2度としないためにも、近くの店のバリアフリーをリサーチしておく必要があるんじゃないかと思ったのがきっかけでした。リアライズのバリアフリー調査といえば…そう、リアルライフニュース掲載のバリアフリー情報でもおなじみの川本将勝氏をお呼びして、フィールドワークバリアフリー調査隊が結成されました!!



第4, 5回フィールドワーク バリアフリーチェック隊が行く!



まず、学校内で、大山君と川本将勝氏によりバリアフリーチェックシートを作成し、その後、学校を出て大山君のピックアップした店舗のチェックリストを基に、調査をしに行きました…。夏の太陽がサンサンと照りつける中、みんな汗だくになりながら、店舗を周りまわりました！ 一見、店も大きく、車いすでも入りやすそうな造りで、車いすトイレも完備されているお店！しかしそこには落とし穴が…。お店は見た感じだけではわかりませんね、とにかく入ってみましょう！



高齢者や足の不自由な方も利用しやすいように、段差をなくしバリアフリートイレを設置したそうです！しかし、車イスでは狭く使いづらいようです。実際に車イスを利用している大山君がトイレに入ろうと挑戦しましたが、狭くて無理でした。

バリアフリー調査に行く前までは、点字ブロックの上に、カラーコーンや泥除けのマットがあり、隠れていました。これでは、せっかく設置した点字ブロックも役に立たないのでは？！ 店の方にこれを伝え、物を移動してもらうように伝えました。

※写真1は中華料理店・登龍軒さん(桃山大学通り)
写真2、3、4はドラッグストアキリン堂のぞみ野店さん
にご協力の上、写真を掲載させて頂きました☆



車イス対応のトイレがありますが、その入り口への通路には商品やカートが置かれ、車イスでは通れなくなっています。トイレには鍵がかかっています。トイレを使いたいと店員に声をかけると、店員がカートを移動させ、トイレの鍵を外します。

バリアフリー調査を終えて…

大山君は、初めてのバリアフリー調査に少し緊張な面持ちでした。しかし、件数をこなすごとに、調査に慣れてきたのか、先陣を切り、積極的に店員と話し、調査に取り組んでいました！今回は、店舗に連絡せずに調査を行なったので、混雑時や営業時間外の為、調査することができなかった店もありました。大山君は次回からバリアフリーチェックする時は、事前に店舗に連絡をすることが必要だと、今回の調査で気づくことができたと話していました。



第6回フィールドワーク 阪神巨人戦観戦！！



かんせん きかく
観戦の企画ができるまで…

フィールドワーク第1回目の時、リアライズスタッフと大山君との

話の中で、大山君がやってみたいことを聞くと、甲子園球場に野

球観戦に行くのが夢だと言っていました。フィールドワークの中で甲子園球場にいけたらいいなあと話をしていまし

た。そして、大学も夏休みだということもあり、第6回目フィールドワークでは甲子園野球観戦に行くことになりました。

第4回、5回で行ったバリアフリーチェックを生かして、大山君に甲子園球場までどういう手段で行くかを調べてもらい、

その行き方で行くことにしました。



当日、阪神梅田駅に集合し、そこから阪神甲子園駅に向かいました。今回

は川本氏が参加できず、トーマス(西野 謙)が参加しました。集合場所である

梅田駅には、難なく来れたそうですが、そこから甲子園球場に向かうまでには

数々の難関が待ち構えていたのです。

甲子園駅にはエスカレーターしかなく、車イスを斜めにし、駅員に支えてもら

い、エスカレーターを下りました。こんなに多くの方が甲子園駅を利用するのに、「エレベーターがないとはどういうことな

んでしょうか!」と思いながら、駅を出、甲子園球場に向かいました。

大山君は、自分の買いたいグッズや、友達に頼まれたものがあった

らしいので、球場に入る前に、買い物に行きました。「グッズがいろいろ

売ってそうなところは?」と回りを見てみると、ありました! 甲子園名物、

露店群が? 「おっ! いっぱい露店並んでるやん! こころへんやった

らなんでもありそうやなあ~」と大山君のテンションは上がるばかり。

が! しかし露店の前に着くと、そこに待ち構えていたのは、階段!!



グッズショップを目の前にして、食い下がるわけにはいかん! という様子のお大山君。そして露店の周りにスロープない

か見に行きました。すると、ありました! スロープが! 一同ホッとしてスロープを歩いていると、「ん? なんかおかしい?

なんでや??」なんと、スロープには車イスでは、通り抜けられないフェンスがありました。きっと、混雑時に、人が倒

れないように人数整理するために設置したものだと思います。結局、車イスでは、行くことができず、介助者を使い、探

してきてほしい商品を伝え、買ってもらうことにしました。大山君も「自分で商品を見に行きたかったんですけどね

え」と残念そうな様子でした。

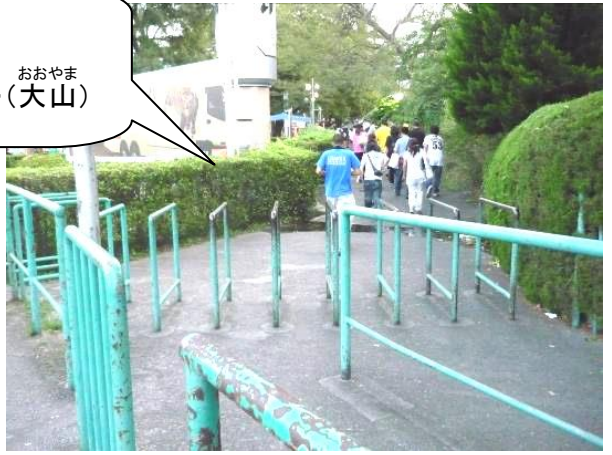
とりあえずグッズ買いは終わり、
いよいよ球場に入るときが来ました。
前号で紹介していたように、

目の前にはフェンスが！！
僕、通れないんですけど…(大山)

大山君はかなりのジャイアンツファンであり、ジャイアンツ席で見
ようと考えていたのですが、大山君はチケットを買い間違えてし
まい、チケットでとった席は、タイガースファンで埋められたスタンド
にありました。夏休み最後の日曜日ということもあり、親子連れの
人も多く、タイガーススタンドは熱気に包まれていました。この
阪神タイガース応援団のど真ん中で、大山君はジャイアンツファ
ンとして応援するのだろうか、思いながら、試合開始を待ちまし
た。

大山君は介助者に指示を出し、カバンからなにやら服のような
ものを出しました。その服は、高橋尚成(ジャイアンツのピッチャ
ー)のユニホーム！！そして右手には、小笠原選手の名前が
入ったうちわ！！「阪神ファンには負けてられません！！」といわ

んばかりの表情で、次々にジャイアンツグッズをカバンから取り出すよう介助者に指示していました！



プレイボール!!!

試合が始まると、さすが甲子園のタイガース席、タイガースカラー
一色、応援していました。しかし、間髪入れず、タイガースファンに
負けじと、大山君はジャイアンツユニホームを着、ジャイアンツグッ
ズのうちわ、メガホンを取り応援していました！！両選手の攻防の
激しい試合が続き、その中、コツコツと1点1点取っていった阪神が、



そのまま逃げ切り、試合終了。

試合結果は、3対1と、阪神の勝利に終わりました。大山君は
残念そうな表情を見せていましたが、「今度来的时候は、巨人が
勝つときに甲子園に来たいですね。」と、甲子園観戦の夢が
叶えられたことに満足している様でした☆

甲子園球場を跡にし、みんなで
記念写真！ハイチーズ！！



仲間なかまのコーナー

このコーナーはリアライズを訪問する仲間たちが自由に投稿できるページです!!
 役に立つミニ情報や、みんなの活動紹介にお役立てください!
 投稿希望のリクエストがあれば、リアライズ事務局までどんどん応募してください!!
 今回は、辻田さんが代表を務めるサークルNO PLANの投稿です♪

サークルNO PLAN 9月!!

毎年恒例

☆バーベキュー大会☆

みなさん、こんにちは。青春・遊びサークル「NO PLAN」の代表の辻田奈々子です。

今回は去る 9月13日(日)に開催しました、「NO

PLAN バーベキュー」についてお伝えしていこうと思います。

なんと総勢34名! 過去最高~!

今回のバーベキューは堺市内にある浜寺公園で行いました。参加者については、リアライズに関わる仲間たち、私の桃山学院大学での友人など総勢34名の方が来て下さいました。これはNO PLANが始まって以来、最大の参加人数です!!

当日は晴天に恵まれ、まさにバーベキューには持ってこいのお天気でした。当日の買い出しや場所取

りは、リアライズのスタッフの西野さんが主にして下さいました。私は、西野さんたちと合流したあと、集合場所の南海本線「浜寺公園駅」に向きました。駅にはたくさんの人たちが既に待ち構えていました。全員がバーベキューのメンバーだと知り、より一層胸が高鳴りました。1人1人の参加の確認をさせてもらったあと、浜寺公園への大移動が始まりました。

みんな到着! さあ、準備開始!

公園に着くと、私たち女性陣は食材を洗うことになりました。が、ここで問題が発生!! 洗った食材を入れておく用器を用意していなかったのです!! なので、洗い終えた食材は元々入れられていたビニール袋を裏返して入れていきました。また男性陣は食材を切っていくことになりましたが、またしても問題が!! 包丁とまな板を1つずつしか持って来ていなかったのです!! しばらく考えましたが、結果地道に食材を切っていくことになりました。(笑) こうして、ピンチをチャンスに変えながら何とか準備を終

えることができました。既に午後1時を回ってしまいましたが、皆さん、ドリンクを片手にいざ乾杯をし、待ちに待ったバーベキューにありつけることができました。

自己紹介タイム!

バーベキュー開始から30分ほどしてから、初対面同士の方々が多かったので、1人1人に自己紹介をしてもらいました。ニックネームや所属の大学・団体など、皆さん思い思いに楽しく話してもらいました。中にはカラオケの18番ソングを歌うという人もおり(結局歌わなかったですが…)、にぎやかな一時となりました。

1時間にも及ぶ自己紹介タイムが終わると、皆さん互いに打ち解けられたのか、初めて会う人同士で話をしている姿が多く見られました。川本さんをはじめとする台湾TRYのメンバーの方は帰国したばかりのなか来て下さっており、TRYでのお話を興味深く聞いている人もたくさんいました。

名残惜しいですが、解散の時間

午後3時でひとまず締めさせて頂いてからも、残った人同士でのお喋りは絶えませんでした。私もある男の子に公園デートに誘われるといった、ちょっとしたロマンスを味わえました。(笑)。片付けが終わり、日も徐々に暮れてきたため、午後6時に最後のあいさつをさせて頂き、解散となりました。

今回は、これまでのNO PLANのイベントの中で最も多くの方に参加してもらえたので、本当に嬉しく思っています。当日は、私自身が大学の実習期間中であつたため、西野さんを始め、リアライズのスタッフ・ヘルパーの方には準備から当日のサポ

ートまでかなり協力をして頂きました。前述のようなハプニングもあり、至らない点多かったですが、皆さんに楽しんでもらえるイベントにできて



本当に良かったです。

ありがとうございました(*´▽`*)☆

次回予告!!

12月に忘年会を企画中です。先日、企画担当で準備の会議をしました。楽しい時間にできるようにみんなでNO PLANを盛り上げていきたいので今後の活動にもご期待ください!



なかま 仲間のコーナーでは、やく た 役に立つミニ情報や、
みんなの活動紹介を募集しています。
投稿希望のリクエストがあれば、リアライズ事務局までどんどん応募してください!!

とくていひ えいりかつどうほうじん
特定非営利活動法人リアライズ
〒595-0071
住 所 大阪府泉大津市助松 町 1-3-33
エクセラート北 助松 1F店舗 4
「リアルライフ NEWS 仲間のコーナー」担当者まで



とらいぼきん きょうりょく みなさま ほんとう
TRY募金にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました!!

賛助会員のご協力のお願

リアライズの設立準備会を発足してから2年が経過し、NPO法人として活動を始めて1年が経過しました。設立準備会を長瀬と立ち上げたころを懐かしく思います。

リアライズを設立できたのは、リアライズを様々な形で応援して下さった皆様のおかげだと思います。本当にありがとうございます。

まず、2008年3月に川本君が泉大津市での自立生活を始め、1年後のこの3月には和泉市で1名が自立生活を実現されました。また、地域の障害者に向けたヘルパー派遣も契約者数が増え、活動の広がりとともに、常勤スタッフも6名となり、登録ヘルパーも数えると26名となりました。しかしながら、以前変わらず相談支援事業（相談・権利擁護・情報提供などの事業）の委託を受けることは難しく、重度障害者が自立生活を送るためには欠かせない相談事業や情報提供については収入減がない状態が続いております。

また、大切な情報提供の一つとしての「リアルライフNEWS」の発送についても従来通り行いたいと思います。しかしながら、通信の発送については、経費削減のため『障害者第3種郵便』を活用したいと考えておりますが、「発送先の8割が有料購読していること。」という規定があり、通信送付についての購読料を頂かなければならないこととなっております。

当法人では、運営のサポーターとして、賛助会費（1年更新／通信購読料含む）を一口5,000円で、また、寄付金のご協力も募らせていただいております。たいへん勝手なお願いではございますが、賛助会員を継続していただける方々、また、新規加入していただける方々につきましては、別添振込用紙をご利用いただくか、下記の口座までお振込み頂ければと思います。みなさまのご協力を無駄にしないよう、精一杯活動させていただきますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

とくていひえいりかつどうほうじん
特定非営利活動法人リアライズ

りじちよう みついたかお
理事長 三井孝夫

■ お振込先 ■

【ゆうちょ銀行振替口座】

こうざめいぎ とくていひえいりかつどうほうじん
口座名義： 特定非営利活動法人リアライズ
こうざばんごう
口座番号： 00990-4-106506

【銀行振り込み口座】

ぎんこう りそな ぎんこう いずみおおつしてん
銀行名： リソナ銀行 泉大津支店
こうざめいぎ とくていひえいりかつどうほうじん
口座名義： 特定非営利活動法人リアライズ
だいはうみついたかお
代表 三井孝夫

こうざばんごう ふつう
口座番号： 普通 0120225



もくじ

- 第1回NPO法人リアライズ人権セミナー報告(P.2-5)
- 特集 アジアTRY in 台湾 報告(P.6-15)
- フィールドワークニュース(P.16-19)
- 仲間のコーナー
NO PLAN バーベキュー大会！！(P.20-21)
- 賛助会員のご協力のお願い(P.23)
- もくじ(P.24)
- 編集後記(P.24)

1984年8月20日第三種郵便承認 毎日発行

へんしゅうこうき 編集後記

皆さんお元気にお過ごしでしょうか？僕はここ最近仕事の量が増え充実した毎日を過ごしています。今回のリアルライフニュースも皆さんに読んでいただきたい一身体で作成しました。これからもよろしくお願ひします。

2009年11月13日 By 川本

今回のトライの記事はいかがでしたか？第6号の「ダーツの旅」が非常に好評だったので、今回の特集もみなさんに楽しんでもらうべく、みんなであーでもないこーでもない言いながら夜遅くまでかけて書き上げていきました。ぜひみなさんの感想をお聞かせください！ By と一ます

※今回はバリアフリー 情報はお休みさせていただきます。楽しみにされていた方々、申し訳ありません。

《発行人》

関西障害者定期刊行物協会

〒536-0023 大阪市城東区東中浜3-5-16 タイガーマンション1階

《編集人》

特定非営利活動法人 リアライズ

〒595-0071 大阪府泉大津市助松町1-3-33エクセラート北助松1階 店舗4

TEL : 0725-22-7716 / FAX : 0725-22-7746

URL : http://www012.upp.so-net.ne.jp/Realize/

定価 : 100円